

新春を迎えて

下川町長 谷 一之



町民の皆様、あけましておめでとございます。

輝かしい令和2年の新春を皆様とともに迎えられましたことを心からお喜び申し上げますとともに、日頃から町政運営に対する温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年の世相を表す漢字に「令」が選ばれました。昨年、30年続いた「平成」が幕を閉じ、新たな元号「令和」が幕を開けました。「令和」は、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められていることもあり、価値観が多様化

するとともに、今まで以上に「主体性」が求められ、心の豊かさが育まれる時代になるのではないかと思います。

さて、昨年を振り返りますと、洪水・渇水対策や水道、発電利用など多目的なダムとして、魚道など環境に配慮し建設された「サンルダム」

が、事業着手から26年の長い歳月を経て完成いたしました。今後、ダム周辺の整備を進め、「しもかわ珊瑚湖」の利活用を検討して参ります。

また、平成30年6月、政府から「SDGs未来都市」及び「SDGsモデル事業」に選定され、「2030年における下川町のありたい姿」の実現に向け、町内外の様々な人・企業・団体と連携して、積極的に取り組みを進めております。昨年は、「SDGs推進における連携協定」を締結している吉本興業株式会社

と下川町の魅力を高め、発信していく「プロジェクト」下川町株式会社」の中で、品川ヒロシ監督が本町を舞台とした映画「リスタート」の撮影や、多くの町民の皆様がご協力、参加頂いた「しもかわ森喜劇」を実施したところで

す。今後、地域産業の創出や多様な人材の活躍、様々な主体とのパートナーシップを図り、地域づくりを進めるとともにSDGsの達成に貢献していきます。

9月から10月にかけて、大型台風が日本列島を直撃し、多くの人が被災されました。下川町におきましては、災害の少ない町ではありませんが、このような経験から学ぶことも多く、今後、防災意識を高め、安全安心な暮らしができるよう対策を進めて参ります。

本町は、平成31年度（2019）を始期とする「第6期下川町総合計画」を策定しました。基本構想の目指す将来像にSDGsを取り入れ「2030年における下川町のありたい姿」として7項目を掲げ、その実現に向けた取り組みを進め、子どもからお年寄りまで、安心して暮らすことができる持続可能な地域社会の構築を目指して参ります。

今年の干支「子年」は、新しい運気のサイクルの始まりです。植物に例えると成長に向かって種子が膨らみ始める時期であり、未来への大きな可能性を感じさせます。

新年が皆様にとりまして、ご家族ともどもご健勝で充実した1年となりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

